

16) 101 年前のドイツ留学生の絵葉書

—ブレスラウの今昔比較

The Picture Postcards of Japanese Medical Student in Breslau (now, Wrocław) of 1900 and 1901

新見公立短期大学 ○石田純郎

医療法人おだうじ会 小田病院 小田皓二

Sumio ISHIDA and Kouji ODA

昨年の医史学会で小田は「明治期ドイツ留学生の絵葉書」と題した講演を行ない、1900年から2年間、ドイツに留学した坂田快太郎(1865-1931, 岡山医学専門学校教授)が、現地で日本人の学友から受け取った400枚の絵葉書を、その内容を重点において紹介した。

その中からブレスラウ(現在のポーランドのヴロツワフ)の絵葉書を選び出し、石田がそれを持って現地を02年1月に訪問した。同一の、あるいは類似した写真・絵を一種と数えると、全部で33種のブラスラウの絵葉書があるが、その内、9種は静物であり、風景の絵葉書は24種である。それに平井毓太郎伝収載の1枚の写真(ブレスラウ大学小児科クリニック)を加え、25種の風景写真・絵の今昔を検討した。

その結果、現存が確認され現状が撮影できたものの(部分的現存を含む)16種(64%)、消滅が確認されたもの3種(12%)、特定できたが遠隔地のため訪問できず現状の確認ができなかったもの2種(8%)、不明(4%)で、合計21種(84%)の現在の様子が把握できた。

101年前の写真の場所が、限られた日数の調査にもかかわらず、84%も特定できたのは、驚異的に高い比率であると思う。まして、ブレスラウは1945年の連合軍の空爆により中心部の大建造物の多くが大破したことを考えると、なおさらである。ヨーロッパにおいては、教会や公的建物は従前の様式どおりに再建するのが原則で、そのため、大破した建物も確認可能であった。その中には大

学医学部関係の施設もいくつか含まれる。

ヴロツワフの現在の人口は50万人余、町の歴史は9世紀まで遡れるが、16世紀以後ハプスブルグ家、プロイセン、ドイツが領有し、坂田快太郎の留学時にはドイツの大学町で、戦後ポーランド領となった。

ヴロツワフ大学は1409年まで遡れる。医学部は1730年に設置され、戦前、多数の日本人が留学した。

ヴロツワフ大学本部、外科病棟、精神科病棟、小児科病棟、市役所、各種の教会、駅、動物園、市街風景の今昔の写真を、比較・紹介する。公的建造物、すなわち大学本部、外科病棟、精神科病棟、小児科病棟、市役所、各種の教会、駅の大半は、現在も101年前と同じ姿で建っている。しかし、民間建造物の大半は、この大戦時の空爆の結果大破し、その姿が101年前とまったく異なり、姿を消した町並みも多い。

ブレスラウ関係の絵葉書の消印は1900年10月24日から01年5月29日の日付である。ブレスラウ市内、あるいはベルリンから出した千葉検次郎、筒井八百珠、松生、馬杉篤彦、長野純蔵、鈴木、屯田、大島らよりの絵葉書である。

小田が文面を解説した。その内容であるが、勉強、ドクトル・メディチーネ試験、学会についてのものもあるが、それよりもむしろ、生活、観劇、食事、飲酒、女性、セックス、情人、罹病などの、若き日本人留学生たちの青春の生々しい喜びと悩みが記されているものが多い。